

全米工東日本ブロック情報交換会【上】

倉庫満杯で荷物動かず

末端価格の下げ競争加速

本紙既報の通り全国米穀工業(協) (大嶋衛理事長 = 茨城・関東穀粉(株)社長) は先ごろ、都内で東日本ブロックの情報交換会・席上取引会を開催した。大野哲廣副理事長 (静岡・(株)大野商店社長) が進行役を務めた情報交換会では、市中相場の急落を懸念する指摘が続出。組合員報告の後半部分を紹介する。

▷千葉 = ここにきて市中相場がさらに下落し、千葉産の売り玉も増えてきた。ほとんどの産地銘柄が 2 万円近辺となり、かなりの数量が拾われている。ただし在庫を抱えている業者も多く、3 月の決算月に合わせてさらに安い売り玉が出てくるかもしれない。産地の出物がほぼ拾われたのか、今月末にははっきりするだろう。納入先のスーパーでは大手卸が安い見積もりを出しており、当社の見積書を見て「これでは買えない」と言われる。特定米穀は 1 月後半から 2 月にかけて残払いの売り玉が出回り、「残りの荷物を買ってほしい」と案内が入った。もちろん、いまの相場でなければ買わない。

▷新潟 A = 在庫の処分は進まないが、原料は入ってくる。倉庫がパンパンのため、「当面は買いません」とアナウンスするしかない。営業倉庫からも、「現状のペースで入荷すると、パンクするので勘弁してほしい」と言われた。ウチ以外の業者も全く荷物が出て行かないようで、営業倉庫が「こんな年は初めて」と不思議がっている。

加工用・輸出用など 8 年産非主食用の話題が出始める時期だが、8 年産政府買入価格が見えないため価格の指標がない。仲介事業者としては加工メーカー、生産者とも話をしにくく、非常に中途半端だ。メーカーの反応もさまざまで、「高い 7 年産は数量を控え気味だったが、8 年産は買いたい」と前向きなメーカーがある一方、「7 年産で高い主食用米にシフトし、加工用米を作らなかつた生産者とはつき合わない」と強気な姿勢のメーカーもある。酒造メーカーは国産米しか使えないため、数量は固まっており、あとは価格の問題だろう。自県産の酒造好適米を使用すると、新潟・長野・富山などは補助金が出るため、その条件をクリアする方向で進めていきたい。主食用を含めて価格の指標がないため、交渉が難しい。

5 ㌔ 2 千 980 円も現実味

▷新潟 B = 末端の精米販売は売れ行きが悪く、5 ㌔ 3500 円の商品が出始めたと思っていたら、2980 円の商品が話題に挙がるようになった。早い時期に 2980 円が当たり前になるだろう。ただし安い商品を出せば最初は売れるが、すぐに止まってしまう。2980 円の商品を継続するのは相当の覚悟が必

要になるが、それでも売れないのが現実だろうパック米飯も売れず、業務用は精米は契約先が決まっていた販路がない。特定米穀は買うつもりがないのにそこそこ入荷してしまった感じか。現状で相場が下落したが、抱えている在庫は高い。相場が下がり過ぎていると実感しており、ある一定のラインを決めて持ち越すことも考えなければならぬだろう。8年産は種籾が足りないほど主食用のオーダーが入っており、何とか非主食用に誘導できないものか。このままでは8年産も暴落となる可能性が高い。

▷静岡＝納入しているスーパーから「コシの納品をストップしてほしい」と言われた。理由を聞くと、「格安のコシをスポットで契約した。その商品を先に売りたい」との返事。どこから入荷したのかを確認していないが、スーパーもスポット商品を取り扱うよう変化してきた。

▷岡山＝全く動いていないわけではなく、前年実績より多く納入している加工メーカーもある。一方で備蓄米や加工用米を使って「必要ない」メーカーもあり、いまは商品のクオリティを上げることに努めていきたい。来年以降の取引を継続できるよう尽力しており、損切りで売ることはしていない。ただし残っている高い在庫は処分の方法がなく、諦めの境地になってきた。相場が上昇する時期を待って売るしかないのか。

▷福岡＝動きが非常に悪く、市場価格も下落している。銘柄を指定した外食ユーザーとの取引がメインで、安定した価格で供給してきた。ただしメジャーなメディアでコメが取り上げられるようになり、価格だけを切り取った報道を見た納入先から安い価格を提示されることも多い。県内は降雨が少なく、ダム貯水率も20%程度。当分は降雨が少ない予報が出されており、田植え時の水不足が懸念される。

▷熊本＝スーパーがスポットで多彩な銘柄米を取り扱うようになり、自社が抱える在庫では対応できない。中米を使った安いブレンド米から売れている。